

# 政府方針は「独立性侵害」

## 学術会議総会 批判相次ぐ

日本学術会議は8日、東京都内で総会を開きました。会員選考に第三著者を列入させる関連法改正をめぐる問題を審議し政治的意図に立たないとしている

入るやうに開運法改正をめぐる問題をめぐらとしている

「任命担当」という政府側の現行法違反をどう考へてい るのか」など、政府の対応を批判する意見が相次ぎました。

→開運の面  
総会では内閣府担当者が方針を説明し、来年の通常国会に改正案を提出すると表明。既に学術会議は来年10月の改選に向けた選考手続きを進めてくるにもかかわらず、次期会員選考は改正法のもとを行うとし、現会員の任期を延長する必要もあると述べました。選考に關する「第三著者委員会」

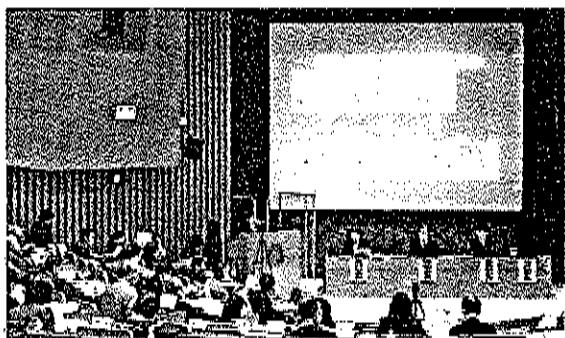
す政府「方針」に対し、「独立性を侵害し政治的意図に立たない」として、その廢止を望むべきであるとしたのも求めました。

学術会議の梶田隆章会長

は、「政府等との問題意識・時間軸等の共有」を強調する方針に対し、「学術には一国に限定されない普遍的価値と真理の追求を通じ人類全体に奉仕する独自の役割がある」と述べ、政府と異なる立場で活動する重要性を指摘しました。

梶田氏は、学術会議は

心着実に改革を進めてきたと強調。政府方針は「既に進んでいる選考プロセスに極めて深刻な影響を及ぼす」と表明し、21日に引き続き開かれる総会で、方針への考え方と対応をとりまとめたいくに呼びかけました。



東京都内で開催された日本学術会議総会=8日